

# 読売歌壇

## 小池 光選

歌を詠む喜び分かち合ひし友ねぶた祭りを待たず逝きたり  
青森市 安田 漢子

【評】短歌を作ることですながつていた大切な友。今年の真夏のねぶたを見ることなく遠くに行ってしまった。「ねぶた祭りを待たず」というところが忘れ難い。

歳月が過ぎゆくことをとりたてて言ふこともなき川に立つ杭  
岐阜市 後藤 進

【評】何の用か知らないが、川にはよくぼつんと杭が立っているもの。あたかも時が流れるように、めぐりを水は流れて、杭は何も言わない。この杭には存在感がある。

手もとより茶碗すべりて粉粉に不意に來たりし命の終り  
奈良市 森景 千恵

【評】思わず手元滑って落ちた茶碗がこたごな。いのちの終わりはかくやと思う。作者のはっとした呼吸が伝わってくる。

真青なる夏空にしかと天王山ありがたきかな力湧きくる  
枚方市 鍵山奈美江

校庭に幕が張られて小津映画父と立見の昭和の一夜  
横濱市 岡 まゆみ

アガパンサス空に向かって伸びて咲く塚本邦雄没後二十年  
千葉市 佐藤 綾子

たちねの母の背小さく見えし日に十五となりぬ遠雷白雨  
横濱市 長倉メロン

国民の義務の選挙の投票を済ませかへりぬ九十六歳  
小美玉市 松山 光

百年後墓誌の我が名をなぞる人想像しつつ父の名なぞる  
真庭市 小谷 義孝

給餌するわが顔じつと見つめし後エサ食べはじむ石亀四十歳  
藤枝市 北泊あけみ

## 栗木 京子選

手遅れになりはしないか六月の紫陽花ささも熱暑に焦げて  
小山市 多田木まさのり

【評】今年は各地で六月のうちから暑い日が続いた。手遅れになるのは紫陽花だけではなく。私たちの生活や地球環境そのものも危ない状況にある。上句の問い掛けが鋭い。

鱧の味教えてくれた君逝きて墓参の帰りその店に入る  
大洲市 城戸 通宗

【評】関西では鱧は夏の代表的な魚とされるが、作者には馴染みが薄かったのだろう。鱧のおいしさを教えてくれた「君」。思い出の店に寄ったところに哀悼の深さを感じる。

中元に素麺くれし弟よ今年は黄泉より何送り來む  
名古屋市 野崎田鶴子

【評】いつも作者を氣遣ってくれた弟。惜しくも亡くなってしまった。今も心はつながっている、という思いが下句から伝わる。

不揃いも良し菜園の三度豆肉巻きにしてビールと喰らう  
東大阪市 吉村 茂美

用水の枿の藻すくい投げ出せば数多の小エビ草生に跳ねる  
羽咋市 森田外志枝

本物の地雷の危険無き人は「地雷踏む」の比喩軽く使へり  
三重県 藤井 恵子

庭石に跡を残してかたつむり明日はとなりの庭まで行くか  
群馬県 真庭 義夫

山頭火の句の解説より始め仕事の指示出す私の上司  
横須賀市 小菅あや子

咲かざりし芍薬の葉のよく茂り来夏はきつと花盛りなり  
三原市 天崎 千寿

ほろほろと酔えば恋しいカナカナの声降りしきる峡の故郷  
高槻市 藤原 久美

## 依 万智選

切り返しすれどはみ出る車庫入れのごとき推敲重ねていたり  
東京都 富見井高志

【評】目標とするところは、わかっているのだけれど、なかなかうまくいかないもどかしさ。丁寧に、少しずつ、近づけるしかないところ、車庫入れの比喩がぴったりだ。

子を打ったあとの食卓ふりかけのドラえもんだけ笑っておりぬ  
大和郡山田 本田 岳

【評】子はもちろん、手を挙げたほうも、表情はひきつっている。印刷のドラえもんだけが笑っているという言い方で、それ以外のすべてがそうでないことが巧みに強調された。何だか調べて分かってしまつたら不思議なことをそのままとした

越谷市 あきやま

【評】何でも手軽に調べられてしまつた時代の便利さに、ちよつと抗う感じがいい。不思議が不思議であることの尊さを感じる。

やさしいとまっすぐ言ってくれたから朝陽に透ける信号の青  
岩倉市 古橋 紗弓

なにひとつ身に足しませずナナフシが木槿の一部になりきっている  
多摩市 谷沢 紀男

いつの日か戻りたくなる今だつ腕におさまるきみをあやして  
朝霞市 桐島 あお

いてほしいあおぞら色のジーンズにてんとう虫のとまるちからで  
京都市 袴田 朱夏

七夕の短冊風に揺れている既読表示はつかないけれど  
東京都 武藤 義哉

ネクタイを買ふあてなどもなくなりて妻を待ちをりデパート地下に  
市原市 井原 茂明

はじめての母の手紙は「書き方」のやうな字でわが還暦祝ふ  
東京都 浅倉 修

## 黒瀬 珂瀾選

猛暑日の犬の散歩はやや遅れ谷津田のむこう陽の翳るころ  
東金市 山本 寒苦

【評】人間も大変だけれど犬だって大変。地面は灼けるし。普段より遅い時間、谷の向こうへ日が暮れるころに散歩に出る。夏の夕べの穏やかさと同時に、犬への愛も感じる歌。

初物の夕顔とクジラ炊き合わせ茗荷散らせば涼風の立つ  
新潟市 斎藤 斌

【評】単純に事実を詠み込んだだけに見える、なんだか妙に「おいしそう」。材料の選択自体が、夏の風情に満ちた絶妙な「詩」です。人生をChatGPTに尋ねると昨日も1000万人に訳かれましたと

倉敷市 中路 修平

【評】生成AIに「人生とは何か」と訊いたら、「同じことを訊いた人が1000万人いました」と答えられた。群衆の中の平凡なひとりであること……それが実は人生の真理？

冷房を入れたつもりと祖母は言う熱帯雨林と化した六畳  
大阪市 岩田 文子

旅の途中ひとりの茅の輪をくぐるときふと寂しきか平安神宮  
横濱市 杉本 恭子

麦刈りと田植を終へたか遠き日の故郷思ふ猛暑の東京  
国分寺市 加藤 武夫

入浴介助の最中に呑むボカリが骨身に沁みる介護士の夏  
須崎市 野中 泰佑

康太郎二十三にて天死せり卒寿は友と歌ふ「花」など  
高崎市 熊沢 峻

父の日に娘のくれたくちなしの花の白さは娘の白さ  
鳥取県 表 いさお

親子でも見ぬ振りせよというごとく神はくれたり白内障を  
東京都 大室 英敏